



真宗大谷派旭川別院

旭川別院だより

秋号  
2023

発行所 真宗大谷派 旭川別院  
輪 番 太田 法生  
〒070-0030 旭川市宮下2丁目  
TEL.0166-22-2409  
FAX.0166-22-2411

■印刷: 植平印刷株式会社  
■旭川別院ホームページ

旭川別院 | 検索

## 涅槃の城には信を

### もって能入と為す。



北海道教区第十七組 幸福寺

楠 信 生

題としてあげさせていただいた言葉は、親鸞聖人の師である法然上人が『選択集』の中で説いておられるもので、つぎのような文です。

まさに知るべし、生死の家には疑をもつて所止と為し

涅槃の城には信をもつて能入と為す。

『尊号真像銘文』に引文、真宗聖典 五二七頁 人間の世界は本願を疑うことよって迷いとどまり、さとりの世界へは真実信心によつてよく入ることができ、という意味です。涅槃はすべての煩惱(身を煩わしところを悩ます)を滅して、あらゆる苦しみから解放された境地を指しますが、その根拠となるものは智慧の成就なのです。智慧を抜きにして、煩惱の滅・苦の滅のみを求めるではありません。この「さとり」の世界へは真実信心によつてよく入ることができる」という仏道は、仏教の歴史の中で面期的な教えであったのです。親鸞聖人は法然上人をほめたたえて、つぎのように詠われます。

諸仏方便ときいたり

源空ひじりとしめしつ

無上の信心おしえてぞ

涅槃のかどをばひらきける

### 信心は聞法による

(意味 諸仏が衆生をみちびく手だての時が来て 源空聖人として現れ 他力のこの上ない信心を教えて さとりに入る門を開きになった。)

真宗七高僧の第一祖である龍樹菩薩に「信方便の易行」という教えがありますように、「涅槃の城には信をもつて能入と為す」の言葉は法然上人の独創ではありません。しかし「行に迷い信に惑」つてきた人間にとっては驚くべき教えであります。その感動は「諸仏の方便の時が至った」「源空上人が現れてくださった」「他力の無上の信心」「門を開きになった」と説かれる親鸞聖人の感動からも知ることができます。

親鸞聖人は『教行信証』『信巻』に『大無量寿経』下巻の冒頭の文を引かれます。

本願成就の文、『経』(大経)に言わく、諸有(あらゆる)衆生(しゅじょう)、その名号を聞きて、信心歓喜(かんぎ)せんこと、乃至(ないし)一念せん。至心に回向せしめたまえり。かの国(くに)に生まれんと願ずれば、すなわち往生を得(え)、不退転に住せん。ただ五逆と誹謗(ひぼう)正法(しょうぼう)とをば除く、と。已上

真宗聖典 二二二頁

信心といつても、人間の思いを固めたような質のことではありません。『大無量寿経』の言葉にあるように「その名号を聞き」て「信じ喜び疑うところのないこと。」「至心に回向せしめたまえり」ということは、如来の真心をもつて私たちに南無阿彌陀仏を回向、つまりふり向けてくださったのです。

南無阿彌陀仏について蓮如上人は『御文』の中で「六字のころ」「南無阿彌陀仏の六字のすがた」というように、幾度も懇切に説いてくださっています。「南無」というのは煩惱具足の私に対する「たのめ」(如来のまことの願いを信ぜよ)という如来の呼び声であり、「阿彌陀仏」というのは「たのむ衆生をかならずたすける」如来の名であるのです。この「たのめ」と「たすける」を六字の名として誓いを立てて衆生に回向されていることから「六字のすがた」とあらわされたのであります。

蓮如上人が「六字のころ」として私たちに届けようとしたことは、「信心は聞法による。そして聞法とは聞名である」ということでありましょう。如来の願いを名とされたところを賜るということであり

これが真宗の信心を他力の信心と言われるゆえんであります。自覚としては、如来の本願にこそ真実あり、われに虚假不実ありという気づきであります。南無阿彌陀仏の名号の徳を誓われた本願のまことと聞きとられたことですから、他力の信心と言われます。その受け止めは、教えと向き合い、教えの言葉に自分を聞き続けることとあります。

ここで、あらゆる衆生の往生を誓っているにもかかわらず「五逆と誹謗正法とをば除く」と説かれていることについてです。仏はすべての人々を救う、もれるものを作らないのです。ただし、すくわれるとは本

当の人間になるという基本を忘れてはなりません。罪を罪と知ることなくして欲望追求を容認するような思想は邪教と言わなければなりません。

### 他力の信のすがた

他力の信心という、自主性の欠如や依存状態を思うかもしれません。それは全くの誤解と言わなければなりません。真宗の教えの歴史で信心の相(すがた)として、機法二種深信ということが教えられてきました。機とは法を信ずる人間のころをいい、法とは人間に信じられる仏の教えのことです。したがって、機と法とは別々にあるものではなく、信心には、信ずるころの面と、信じられる仏の教えの面の相があることを説いたものです。

人間の心は罪惡深重であり、その人間をもらさずすくうという法は深甚微妙であるという自覚が機法二種深信です。罪惡深重の自覚のゆえに自己を美化(過大評価)することなく、平等の法への信頼ゆえに卑下(過小評価)することがない。罪業の身の自覚とともに、如来大悲の恩を報ずる生活者となるのです。

### 愚者になりて往生す

親鸞聖人の八十八才の時の手紙に「故法然聖人は、「浄土宗のひとは愚者になりて往生す」と候いしことを、たしかにうけたまわり候いし」(真宗聖典 六〇三頁)と書かれてあります。聖人最後の手紙と言われております。

私どもの日常のころは、仏法を知的関心で求めてしまいます。親鸞聖人が最晩年に至つてなお「愚者になりて往生す」という師法然上人の言葉を使われたところに、当時の弟子の人々が、そして現代の私たちが知的優位性に立たんとすることを悲しんでおられることを知らされます。罪惡深重を語りながら、内在する上昇思考のころゆえに凡夫の自覚の不完全性を教えられるのです。

凡夫の信、凡夫の行、往生の正業、いずれもが如来の本願の内にある、この「いわれ」にあきらかなることこそ真宗であると言われるのです。

## 法座・行事案内予定

### 10月

|     |         |             |              |
|-----|---------|-------------|--------------|
| 1日  | 午後7時    | 公開学習会       | 島山 明光 師      |
| 6日  | 午前10時   | 婦人会日帰研修会    | 行き先 最照寺(幌加内) |
| 7日  | 午後1時    | 群萌の会        | 列座           |
| 8日  | 午後1時    | マヤの会        | 列座           |
| 10日 | 午後1時30分 | あゆみ会        | 列座           |
| 13日 | 午後1時    | 初心の集い 輪番    | 列座           |
| 16日 | 午後1時    | 同朋の会        | 列座           |
| 18日 | 午前10時   | 婦人会         | 輪番           |
| 21日 | 午後1時30分 | 報恩講実行委員会    | 列座           |
| 随時  | 午後7時    | 壮年の集い 報恩講準備 | 列座           |

### 11月

|             |         |         |  |
|-------------|---------|---------|--|
| 1日          | 午後5時    | 旭川別院報恩講 |  |
| 1日          | 速夜      | 3日 速夜   |  |
| (興部町興隆寺住職)  | 伊藤 秀 師  |         |  |
| 4日          | 晨朝      | 5日 満日中  |  |
| (大正町幸福寺前住職) | 楠 信 生 師 |         |  |

### 12月

|     |          |          |         |
|-----|----------|----------|---------|
| 1日  | 午後7時     | 公開学習会    | 島山 明光 師 |
| 7日  | 午前11時    | 群萌の会報恩講  | 輪番      |
| 8日  | 午前11時    | マヤの会報恩講  | 輪番      |
| 13日 | 午後1時     | 初心の集い 輪番 | 列座      |
| 16日 | 午後1時     | 同朋の会報恩講  | 輪番      |
| 16日 | 午後7時     | 壮年の集い報恩講 | 輪番      |
| 18日 | 午後1時     | 婦人会      | 輪番      |
| 31日 | 午後11時40分 | 初鐘       | 輪番      |
| 未定  | 午後1時30分  | あゆみ会     | 列座      |

### 1月

|     |         |              |    |
|-----|---------|--------------|----|
| 1日  | 午前0時    | 修正会          | 列座 |
| 16日 | 午後1時    | 同朋の会         | 列座 |
| 17日 | 午前11時   | 群萌の会(初顔合わせ)  | 輪番 |
| 18日 | 午前10時   | 婦人会(ゲーム大会)   | 予定 |
| 中旬  | 予定      | 旭川別院門徒新年会・後  |    |
| 未定  | 午後1時30分 | 壮年の集い(初顔合わせ) | 列座 |
| 未定  | 午後1時30分 | あゆみ会         | 列座 |





輪番感話 ⑪

「われもたすかり 人もたすかる  
というのが 仏教の教え」8月の真  
宗教団連合カレンダー(曾我量深)  
のお言葉であった。  
夏になると家の中にまで昆虫が  
入り込むようになり、特に私は蜘蛛  
が嫌いである。幼少の頃学校へ行く  
前に、お隣の牧場まで、お寺の境内  
の裏道を歩き、搾りたての牛乳を貰  
うのが日課であったが、よく蜘蛛の  
巣にひかかってしまうのが、凄く嫌  
であった。  
それ以来蜘蛛を見るとゾッとし  
てしまうほど苦手である。たまに家  
の中に入ってきた蜘蛛は、ちり取り  
か、うちわにのせて外に出すのだが、

その時「逃がしてあげるから、もし  
僕が地獄に落ちて苦しんでいたら、  
糸を垂らして助けてくれよ」と自分  
勝手な都合のいいことを呟ってい  
たのである。  
もちろん芥川龍之介著の『蜘蛛の  
糸』を昔読んでのことが印象に残っ  
ているからである。  
さて『蜘蛛の糸』での悪人、犍陀多  
(かんだた)は生前殺人や放火など  
悪いことばかりをして罪を犯して  
きたが、たった一度蜘蛛を助けたこ  
とがあった。池の中をのぞかれたお  
釈迦様は、地獄の底に苦しむ彼の前  
に糸を垂され、上に登り始めたこ  
き、ふと下を見ると大勢の罪人達が

ぶら下がり登って来ているではない  
か。たまたま「これは俺の糸だ、降り  
ろ、降りろ」と叫んだ途端に糸がプ  
ツリと切れて地獄の底に堕ちて  
いった。  
私はこの物語を、自分だけ助かる  
うとする自己中心の姿を戒めるも  
のだと思っていた。しかし、それは間  
違いであったことを教えられた。糸  
が切れたことがむしろ救いであった  
のだ。一切衆生の苦悩の大地に落在  
し、「地獄は一定」と「五濁の大地」を  
生きんとする場を受け取ることが  
なければ、救いの必然性はないので  
ある。

(太田 法生)



真宗大谷派

旭川別院  
報恩講

2023年  
11月1日～5日

鍵役 宣心院殿御参修

- 結願速夜／4日 14時～
- 結願日中／5日 10時～



おおたに のぶふみ  
大谷 暢文 殿  
東本願寺鍵役

報恩講講師

4日 晨朝・日中・大速夜／5日 晨朝・満日中

1日 速夜／2日 晨朝・速夜／3日 晨朝・日中・速夜



くすのき しんしょう  
楠 信生 師  
(大正町 幸福寺前住職)



いとう しげる  
伊藤 秀 師  
(興部町 興隆寺住職)

※(院内)は別院の輪番・列座のみのお勤めです。

| 6日               | 5日                | 4日                     | 3日                 | 2日                | 1日                | 日   |
|------------------|-------------------|------------------------|--------------------|-------------------|-------------------|-----|
| 月                | 日                 | 土                      | 金                  | 木                 | 水                 | 法要  |
| 7時(院内)<br>(法話なし) | 7時<br>(法話あり)      | 7時(院内)<br>(法話あり)       | 7時(院内)<br>(法話あり)   | 7時(院内)<br>(法話あり)  |                   | 晨 朝 |
|                  | 10時<br>(法話あり)     | 10時<br>(法話あり)          | 10時(院内)<br>(法話あり)  | 幼稚園報恩講<br>10時     |                   | 日 中 |
|                  | カレーライス<br>(日中参詣後) | お弁当<br>(日中参詣後)         | お弁当<br>(日中参詣後)     |                   |                   | お 斎 |
|                  |                   | 14時<br>鍵役ご挨拶<br>(法話あり) | 13時半(院内)<br>(法話あり) | 14時(院内)<br>(法話あり) | 14時(院内)<br>(法話あり) | 速 夜 |
|                  |                   |                        | 15時半               |                   |                   | 御伝鈔 |

- お斎券の配布はございません。
- 3日速夜・4日速夜・5日満日中に参詣の方には記念品を配布いたします。

報恩講日程(予定)

旭川別院報恩講 実行委員長 佐古 光臣  
旭川別院輪番 太田 法生

謹啓 秋晴の候、ご門徒各位には益々ご清祥のことと存じ上げます。  
さて、旭川別院宗祖聖人報恩講は、宣心院殿ご参修のもと、崇敬寺院、  
和暢会ご参勤にて、左記の通り厳修させて頂きます。  
何卒、ご参詣下さいます様、お待ち申し上げます。  
尚、三日日中参詣後・四日日中参詣後のお弁当、五日結願日中参詣後の  
カレーライスを用意致しております。

合掌



# 法 あ れ こ れ 仏

## 身近な仏事

### 報恩講とは

現代を生きる私達にとって報恩という言葉は、もしかすると馴染のない言葉になっているかも知れません。恩という言葉に馴染みが薄くなっているのは、どこか自分の力のみで、他の者には世話にもならずに生きていると感じているからではないでしょうか。

「報恩」とは恩に報いるという意味です。この私が生きている親の恩、師の恩、周りの人の恩、人間ばかりではなくあらゆるものの恩、それらの恩に気づき・知ることによってお返しをするということです。特に真宗で報恩とは、この私を救わずにはいられない仏様(阿弥陀仏)のはたらきを知り、その念仏の教えをすすめれた宗祖親鸞聖人の恩に報いることを指しています。

親鸞聖人は真宗門徒全ての人たちに偲ばれる人です。なぜなら私達人ひとりにまで生きる依り所を示して下さった恩人であるからです。また、各ご家庭でも在家報恩講としてお参りするのは、私たち自身がとも

に念仏を申す身になっていくことを確認するご縁であります。

私たちが日々を過ごす暮らしは、実は多くのご縁によって成り立っているのだと改めて気づかせていただく、それが報恩講という場ではないでしょうか。

(小宮山)



## 初鐘並びに修正会のご案内

### 日程

- 初鐘 令和五年十二月三十一日(日) 午後十一時四十分より開始
- 修正会 令和六年一月一日 午前零時より開始
- 場所 初鐘 鐘樓堂前・修正会 本堂



## お年始参りのご案内

期間 一月六日～三十一日まで

- ご案内の日時につきましては、事前にハガキにてご連絡させていただきます。
- 尚、年始参り中の月忌参りはお休みとさせていただきます。
- 一月中にご法事等をご門徒様は、十二月二十日迄に別院にご連絡のうえ、調整願います。

## 御正忌のご案内

御正忌とは親鸞聖人の祥月命日(亡くなられたその日の事)を指します。親鸞聖人は十一月二十八日に亡くなったと伝えられています。(に勤まるお参りの事です。聖人の御命日をご縁として、そのお開きになられた教えを頂く大切な日です。皆様お誘い合わせの上、お参りください。

■日程 十一月二十八日(火)

午後一時より

■内容 御正忌お勤め、後法話

■場所 講師 圓浄 和之師

本堂



## 別院子ども会

約3年ぶりに開催したお泊り会には20名の参加もあり賑やかな子ども会となりました。35度近い気温の中でも汗だくになりながら元気に遊ぶ子供たちの姿から、中年を迎えつつあるスタッフも元気をいただけた気がします。次回のお泊り会は冬休み期間中に予定をしております。どなたでも是非ご参加下さい。



## 境内清掃ご報告

七月下旬、ご門徒の皆様と境内清掃を致しました。沢山のお手伝いを頂き、後会食を致しました。有り難うございました。



## 相田みつをパネル展

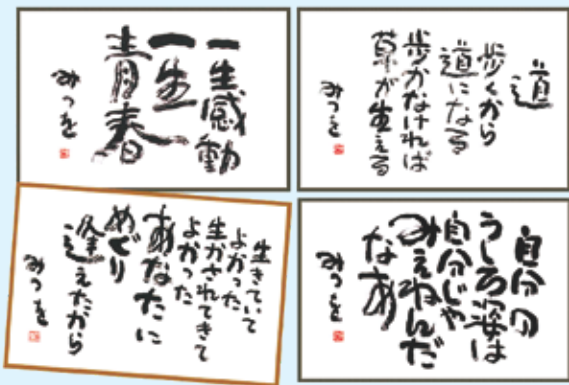
### 日時

11月3日(金) 9:00～16:30  
11月4日(土) 9:00～16:30  
11月5日(日) 9:00～13:00

### 場所

旭川別院大谷ホール2階

入場無料



## 旭川 刑務所

## 刑務所作業製品 ミニ矯正展

### 場所

旭川別院大谷ホール2階

### 日時

十一月三日(金) 午前九時～午後四時半  
十一月四日(土) 午前九時～午後四時半



※その他各種製品が多数あります。



# 幼稚園型認定こども園 旭川別院附属 大谷さくら幼稚園

## \*旭川別院附属大谷さくら幼稚園便り\*

二学期が始まりました。今年の夏は、暑い日が続きました。涼しいお部屋で休息を取りながら、外では夏ならではの遊びを楽しみました。これからの季節、北海道の秋は変化がはつきりとわかります。子ども達と一緒に様々なことを感じ、気持ちを伝え合い、深まる秋、冬への移り変わりを楽しみたいと思っています。

### クラスの様子

\*0歳児 ひよこ組



暑い日には中庭でお水遊び。ペットボトルの穴から落ちる水に手を伸ばして触っています。

\*1歳児 りす組



色水ゼリーの不思議な感覚を味わっています。だんだん細くなってきました。



水風船は、今まで触ったことがない感触です。

\*2歳児 つぎ組

スコップで砂にお絵かきができる。と気づいた二人。『ガタンゴトン』、『ガタンゴトン』と線路をイメージして長い線を描いています。

\*3歳児 こあら組



水遊びでは、色水や水の流れ等、じっくりと試して遊んでいます。



\*4歳児 ばんだ組

色水と石けんで作った泡を混ぜ合わせると、何だか美味しそうです！もこもこスイーツ屋さんが開店しました。

\*5歳児 きりん組



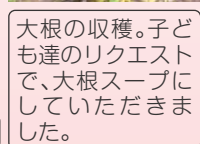
園バスで、自分達の行く学校見学ツアーに行きました。これから、小学生との交流も計画しています。

### 食育活動

春に植えた野菜の種や苗がぐんぐん育ち、少しずつ収穫が始まりました。



ミニトマトが赤くなりました。



大根の収穫。子ども達のリクエストで、大根スープにしてみました。



きゅうり、ぱくっ！

### お楽しみ給食



たこさんランチ



かにさんランチ

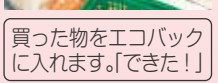
### おまつり

きりん組の子ども達が企画したおまつり。サークルタイムでどんなおまつりをごっこにしたいか話し合いを重ねました。『小さいお友達も楽しめるかな』『ミニ箱も必要かな』『座って食べる場所があったらいいな』という意見が出ました。お店はかき氷、ヨーヨー釣り、焼きそば、ミニドック、チョコバナナ、的当て、お茶を淹める、に決まりました。

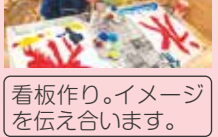
☆準備…材料の買い物、看板作り



「どれにしようかな。」



買った物をエコバックに入れます。『できた！』



看板作り。イメージを伝え合います。

☆招待…小さい組に看板を持って招待



おまつり何があるのかな？うさぎ組さん、もわくわくです。

☆当日…小さいお友達への優しいおもてなし。そして自分達も楽しむ！

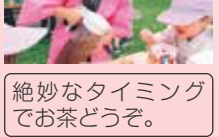
小さい組さんを優しく招待した後は、きりん組のおまつりごっこを思い切り楽しみました！『おまつりごっこが終わり、悲しいな。』と話す子も。夏の素敵な思い出になりました。



誰が来たのかチェックします。



「これ、お勧めです！」



絶妙なタイミングでお茶どうぞ。

## 感謝



門徒 森 映

## ご門徒の声

九十五歳で母が亡くなって三度目の夏。大変な暑さのせいもあったが、今年も花火大会を見に行くことは無かった。一人で見ると花火は寂しくて嫌だ。母が存命の頃は車椅子を押して毎年二人で花火を鑑賞した。背もたれを少し倒して花火が打ち上がる夜空を目を大きく見開いて無言で見ている母。その横で、上空の花火と母の顔を交互に見ながら缶ビールを飲む至福のひと時。帰り道は大勢の人たちの間を縫うようにして誰よりも速く進む車椅子が誇らしかった。歩道の段差や穴ぼこに車椅子の車輪が引っかかったりしたら大変なことになっていたと、今になって思いだすたびにヒヤッとする。

足掛八年の自宅介護生活は毎日が無我夢中であつという間に終わった気がするが、手元に残った十一冊の介護記録帳を改めて読み返してみると、一日一日が中身の濃い充実した日々であつたと思う。寝たきりの母親を前にして、いつも「今が一番いい時かもしれないな。」と独り言を言っていた。

知人・友人・近所の人・親戚、多くの人たちの支えと励ましのお陰で続けることが出来、感謝することの尊さが私の心により強く残った。母が亡くなった後の今でも私に優しく親切に接してくれるのも、きつとみんなは私の後ろに母の姿を見てくれているからだと思う。わたしはいい親に恵まれた幸せ者です。

## うどんダ

私は毎年人間ドックを受けています。今年も大丈夫であろうと思って検査結果を楽しみにしてました。数日後に結果が届き再検査の判定でした。そこで初めて健康だった体に異変が起きている事を知りました。

釈尊は生・老・病・死は人生の四苦であると申されました。偶然の中に賜った命ですが生きると言うことは大変なことです。若さはいつまでも続かず必ず老いるのです。健康で一生を終えることもまず有り得ず病気になるのです。そして死は避けられないのです。これが逃れることが出来ない自然の姿であると申されています。

私は人に対してわかっているように語っていましたが、いざ自分の立場になると毎日がモヤモヤする生活で自分の思いにいつぱいになり、教えに帰れていない自分であると知りました。人間ドックのご縁で、もう一度教えを聞き直すきっかけになったと感じました。

井畑毅俊

## 真宗大谷派 旭川別院

歴史ある本来の姿での儀式

旭川別院を会場とした葬儀が執り行えるよう準備を致しました。亡き故人とお別れを告げるだけの告別式ではなく、故人との繋がりを大切に、仏教本来の儀式に基づいたご葬儀です。どうぞご利用下さい。



大谷ホールは、大きな会場で設備も豊富に備わっております。小規模でなくとも野卓でお葬式をされたい方は是非ご利用ください。



使用料 (葬儀・会場費込)

●各広間 …………… 100,000円 (税込)

●大谷ホール …… 150,000円 (税込)

※詳細は別院迄 TEL 0166-22-2409